



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	女子高校生の子宮頸がん予防行動に関する心理社会的要因：保健行動モデルを使ったワクチン接種行動の検討(審査結果の要旨)
Author(s)	小林,優子
Citation	
Issue Date	2015-03-17
URL	http://hdl.handle.net/2309/139050
Publisher	
Rights	

審査結果の要旨

(1) 研究の目的に意義や独創性があるか。

近年、女性の子宮頸がんによる死亡率は高まってきており、予防はきわめて重要な公衆衛生、学校保健の課題である。しかし、若い女性の子宮頸がんワクチン接種行動に関する研究は、日本ではワクチンの導入が最近のことであるため、研究が乏しい。とりわけ、女子高校生を対象にした研究は、皆無に等しい。

この観点から、小林氏の研究は、子宮頸がん予防ワクチン接種行動並びに接種意図のメカニズムを明らかにするために、質的研究法と量的研究法の両方を取り入れて実施した研究の意義と独創性は大いに評価できる。

特に、質的研究では、インタビューデータに基づき、子宮頸がん予防ワクチン接種行動のメカニズムを構成する、思春期の女子の特性を踏まえた「ワクチン接種に向けた調整力」という概念を生成したこと、量的研究では、その生成した概念を測定する尺度を開発してモデルに導入し、より詳しいメカニズムを統計的に検証したことは、大きな成果といえる。

(2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

質的な研究では、M-GTA という教育や看護、保健・福祉等の領域でプロセス性のある現象を対象に、データに根ざした理論生成を行う方法を用いており、子宮頸がん予防ワクチン接種行動に至るプロセスと要因を明らかにする上で、適切な方法である。

また、量的方法は、Mplus という新しい共分散構造モデリングが可能な分析ソフトを用いている。その特徴は、従属変数が 2 値である場合のパス解析が可能なことである。いわゆるロジスティック回帰分析を共分散構造モデリングにより解析できるのは、このソフトのみであると定評がある。Mplus によって、子宮頸がん予防ワクチン接種行動ならびに接種意図のメカニズムをモデル化したパスモデルを統計的に検証しており、先進的で妥当な分析手法を用いている。そのほか、探索的因子分析、確認的因子分析を用いて、尺度構成を行うプロセスも、方法論的に適切なものであり、当該分野における研究方法として優れている。(3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

インタビューの対象となった女子高校生サンプルの収集は、十分に倫理的に配慮されており、同意の取り方も倫理的である。また、質的研究にふさわしいバリエーションに富んだサンプルが意図的に収集されている。M-GTA の分析方法も、分析ワークシートを使い、可視化されており、スーパーバイズも受けて適切に行われている。

量的調査のサンプルも、十分なサイズを集めており、統計的手法の選択も、先に述べたとおり、適切に選択されている。

(4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか

質的研究におけるプロセスの説明とそのプロセスの妥当性の考察は、ヘルス・ビリーフ・モデルという保健行動モデルと関連づけることにより、既存の知識体系を踏まえた妥当な考察と結論になっている。さらに、既存のモデルの改良を示唆することで、自立に向かって育ちつつ

ある女子高校生の特性を踏まえた保健行動モデルの可能性を開いた点で学術的に十分意義のある水準に達している。

量的研究では、妥当な統計手法から結果が生み出されており、その考察はこれまでの文献を踏まえた上で加えられている。したがって、妥当なものであり、改良したモデルを提示し、その点を考察しており、学術的に高い水準に達しているといえる。

(5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

子宮頸がん予防ワクチン接種行動のメカニズムを明らかにするために、質的研究と量的研究を取り入れた研究の意義とその成果は大いに評価できる。

質的研究では、子宮頸がん予防ワクチン接種行動のメカニズムを構成する概念を新しく生成したこと、量的研究では、その生成した概念を測定できる尺度を開発し、メカニズムを共分散構造モデリングによるパスモデルで統計的に検証したこと、とりわけ思春期の女子の特性を踏まえた「ワクチン接種に向けた調整力」という概念をモデルに導入し、より詳しくメカニズムを示したことは、大きな成果といえる。

以上のことより、小林氏の研究は、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科の博士（教育学）の学位授与にふさわしいものであると審査委員が全員一致で認めた。